

令和6年度 滋賀県立陶芸の森事業計画

(2024. 4. 1～2025. 3. 31)

《R6. 3. 21》

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和6年度は、県および甲賀市からの指定管理第4期（5年間）の4年目となり、第4期中期経営計画に基づいて、引き続き誘客の推進、国際的な情報発信、魅力ある展覧会の開催、次世代育成などの事業を積極的に展開し、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

また、陶芸の森の隣接地に移転した信楽窯業技術試験場との連携をより一層深め、互いの強みを活かし協力しながら、産地の担い手育成に努めるなど、陶器産業の振興支援策を促進する。

さらに、大阪・関西万博の開催を見据え、甲賀市や関係機関、観光団体等と連携し、より多くの外国人観光客の信楽地域や陶芸の森への誘導に向けた企画を検討する。

なお、長引くエネルギー・原材料価格の高騰や人件費の上昇に伴い、事業財源への影響が懸念されるなど、先行きが不透明な部分もあるが、新しい生活様式に対応した事業展開が求められる中で、陶芸の森がより一層、来園者や地域から親しまれ、利用される施設となるよう創意工夫に努める。

第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

1. 公園機能の充実

県が部局横断で新たに取り組む「THEシガパーク」プロジェクトも視野に入れながら、花木の植栽や滋賀県材を活用したベンチの設置を進めるなど、太陽の広場や星の広場などの公園機能の充実を図り、来園者に対して快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

(1) 陶芸作品の野外展示

レジデンス作家の作品を野外展示し、陶芸の森という名にふさわしい、自然の中で鑑賞を楽しむことができる空間づくりを行う。

令和6年度は、劣化・破損作品の撤去も含め、魅力ある展示エリアの再構築を進め、整備が完了したエリアから順次、鑑賞情報を提供する。併せて、インスタグラムの撮影ポイントや鑑賞コースをホームページで紹介するなど情報発信に努め、オープン・エア・ミュージアムとしての機能強化を図る。

(2) 窯の広場の活用

穴窯を始め薪窯7基の活用により、つくり手である陶芸家のニーズに応え、創作活動意欲の向上に繋げるとともに、来園者には陶芸の森の特徴的な散策ポイントとして、活きた薪窯を見ていただき、合わせて薪窯がカーボンニュートラルに寄与することを広く認識してもらうため、専門家の助言も得ながら検証資料を取りまとめて紹介する。

(3) 花咲く公園の整備

「火鉢ロード」と命名した歩道沿いに、昭和時代に信楽焼の主力製品であった各種火鉢を設置し、来園者にレトロな雰囲気味わっていただくとともに、園内の様々な花木や草花を適切に管理し、陶芸の森の四季折々の自然豊かな風景を楽しんでいただく。

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森の地域資源を活かしながら、やきものファンに信楽をより知ってもらう陶芸制作講座の開催や、作家が直接販売するマーケット、一般参加型のイベントを開催・誘致するなど、来園者にとって魅力的な陶芸の森を創る。

(1) しがらき体験 しがらき学ノススメ！

信楽焼について広く学んでもらえるように陶芸制作講座を開催する。技法別の講座や薪窯による作品の焼成などの幅広いテーマを取り上げ、参加者アンケートなども参考に、内容の充実や新たな講座を追加するとともに、万博開催に向けて、展覧会観覧とパッケージ化させた外国人向けの体験講座を検討するなど、新たな誘客策によって一層の増収を図る。

講座名	開催時期	内容（募集人数）
ア. 実技講座シリーズ		
①ラク焼の茶碗をつくる	令和6年5月26日(日) 令和7年2月23日(日)	茶碗制作とラク焼焼成技術習得（各15名）
②練り込みの器をつくる	令和6年6月2日(日)	練り込み技法による皿・鉢制作（15名）
③食卓を彩る器をつくる	令和6年6月23日(日)	手びねりで食器などを制作（15名）
④生活を彩る花器をつくる	令和6年6月30日(日)	手びねりで花器・置物制作（15名）
⑤ミニ窯をつくる	令和7年2月16日(日)	手びねりでミニ窯制作・焼成技術習得（15名）
イ. 登り窯講座 薪窯で釉薬ものを焼こう（初級） 信楽焼の器をつくる（初級） 信楽大壺をつくる（上級） 信楽水指、茶碗をつくる（中級） （焼成）	令和6年8月25日(日) 9月8日(日) 9月14日(土)15日(日) 9月22日(日) 10月下旬	信楽在住陶芸家指導による作品制作・登り窯焼成体験 （初級2回：各15名） （中級上級：各15名）
ウ. 登り窯一の間焼成講座（説明会）	令和6年6月9日(日)	登り窯・穴窯講座経験者を対象とした登り窯焼成（8名）
エ. 登り窯グループ参加の部	適時	グループ参加による登り窯焼成（6グループ）
オ. 穴窯体験窯講座 信楽焼の花器をつくる（中級） 信楽大壺をつくる（上級） 信楽焼の器をつくる（初級） 信楽焼の干支をつくる（初級） 信楽壺、蹲をつくる（中級） （焼成）	令和6年9月29日(日) 10月19日(土)20日(日) 11月3日(日) 11月10日(日) 11月17日(日) 12月初旬	信楽在住陶芸家指導による作品制作・穴窯焼成体験 （初級2回：各15名） （中級2回：各15名） （上級：15名）
カ. 穴窯焼成講座（説明会） （焼成）	令和6年8月24日(土) 令和7年3月下旬	穴窯講座経験者を対象とした穴窯焼成（15名）

(2) イベントの開催・誘致

陶芸の森が持つ広大な芝生広場を活用し、信楽セラミック・アート・マーケットなどを自主開催するとともに、来園者にとって魅力的で集客効果が見込めるイベント等を誘致する。

また、新たな取組みとして農水産業関係団体と連携を図り、滋賀県産の農水産物を積極的にアピールするブースの設置を検討する。

イベント名等	開催時期等	主催
ア. 第18回信楽作家市 in 陶芸の森の誘致	令和6年5月2日(木)～5日(日)	信楽作家市実行委員会
イ. 野外音楽イベントSIVEL WARS 2024の誘致	令和6年8月11日(日)	SIVEL WARS 実行委員会
ウ. 第29回信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催	令和6年10月4日(金)～6日(日)	公益財団法人 滋賀県陶芸の森
エ. わくわくウォーキング in 陶芸の森の開催	令和6年12月1日(日)	公益財団法人 滋賀県陶芸の森

(3) 観光および集客促進のための広報活動

陶芸の森を広くアピールし、多くの集客に繋げるため、効果的効率的に情報を発信する。

○ホームページ、SNS、パブリシティを活用した広報の充実

○甲賀市や地元観光協会、びわこビジターズビューロー等と連携したピーアール

○最新の映像技術を活用したバーチャルミュージアムの充実

・令和3年度に開設した陶芸館のアーカイブサイトに、所蔵品の名品を順次紹介する。

・3Dや360°撮影した高精細のVR映像を計画的に制作し、インターネットによる展覧会の開催を試みるなど、新しい美術館・展覧会のあり方を模索する。

(4) 信楽産業展示館多目的ホールの活用【収益事業】

県民に陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい、文化の向上を図るため、信楽産業展示館多目的ホールの貸出を適正に行うとともに、陶芸に関する交流の場とするため、講演会や講座の開催など陶芸の森の各種事業を通じて、多目的ホールの活用を図る。

3. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

陶芸の森の事業展開をより一層推進していくため、「陶芸の森やきもの振興基金」への寄附について、各種事業の実施時やホームページなどで周知を図る。

また、事業に共感する陶芸の森の支援者や新たなファンを増やしていくため、招待券の配布や内覧会への招待など、寄附者への税控除制度以外の独自の特典を設けた「陶芸の森サポーター制度」を広くアピールし、各種団体、企業、個人等からの幅広い支援に繋げる。

第2 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業

新しい視点を交えながら、多彩な魅力あふれる展覧会を開催し、陶芸文化の向上を図る。

今年度は、若い世代に人気のある北欧陶磁器のリサ・ラーソン展や、これまで多く紹介されなかったアジア陶芸の企画展を開催するとともに、地元企業や店舗、信楽高原鉄道、甲賀市と連携を図り、「シリーズ・やきもの×グルメ」と題して、器と料理・盛り付けに着目した、身近な視点から器を紹介する。

(1) 特別展「リサ・ラーソン展 知られざる創造の世界～クラシックな名作とともに～」

＜開催期間＞ 令和6年4月2日(火)～5月26日(日) (48日間/前年度からの継続)

人物や動物、テーブルウェアなど、スウェーデンの陶芸デザインで知られるリサ・ラーソンの当館では三度目の展覧会となる。おなじみの代表作とともに、今回初めて紹介されるスウェーデンの旧市街をモデルにしたレリーフや、少数しか生産されなかったコレクターズアイテム、グスタフスベリ磁器工房や自らの工房で制作した1点ものの作品など、これまで知られていなかった、もう一つの魅力と出会える作品約250点を紹介する。

(2) シリーズ・やきもの×グルメ I 「シェフ イチ推しの、Shigaraki Style」

＜開催期間＞ 令和6年6月15日(土)～9月1日(日) (68日間)

料理の世界から信楽焼の魅力に迫る。信楽で活躍する若手作家の「うつわ」に料理を取り入れるなど、器と料理人との出会いをキーワードにした、陶と食のおいしい時間を楽しめる企画となる。誰もが親しみを感じる身近な「グルメ」をテーマに、盛り付けや調理方法などを動画や写真で紹介するとともに、料理人と信楽焼のコラボなど、ワークショップも併せて開催する。

(3) 特別展「躍動するアジア陶磁—町田市立博物館所蔵の名品から」

＜開催期間＞ 令和6年9月14日(土)～12月8日(日) (74日間)

国内最大級の東南アジアや中国の陶磁コレクション、ガラスの名品を数多く所蔵する町田市立博物館が誇る、東南アジア陶磁器と関連する中国陶磁器、また、国内で名高い中国ガラスコレクションの中から、選りすぐりの作品約130点を紹介する。中国と東南アジアのそれぞれの地域によって生みだされた作品を、技法や色彩によってバリエーション豊かな構成を行い、様々な視点から躍動するアジア工芸の世界を楽しむ。

(4) シリーズ・やきもの×グルメ II 「近江の古陶磁を味わう…湖国の料理とともに」

＜開催期間＞ 令和7年3月15日(土)～3月31日(日) (15日/次年度に継続)

中央に琵琶湖を擁する湖国近江。この地は、広大な湖と周囲の肥沃な山野から得られる幸を活かした、地域性豊かな郷土料理が生まれ、街道の宿場などで旅人に親しまれてきた。

本展では、ユネスコ無形文化遺産に登録された和食文化、特に湖国の豊かな風土に育まれた郷土料理との競演を試みる。古陶磁作品を「観て・使って・味わう」をコンセプトに、鮎ずしやシジミ汁、近江牛の味噌漬けなどを盛り付け、その歴史・由来・調理方法を併せて紹介し、近江の多彩なやきものを道しるべとして、湖国の魅力を堪能する。

また、本展開催に合わせた「関西万博プログラム」として、万博からの誘客を目的に、甲賀市や信楽高原鉄道、地元企業・料理店等と連携したツアーを企画する。

(5) 陶芸館ギャラリー企画展

学校のカリキュラムに対応した「なるほどコーナー」の設置や、夏休みの子ども向け教育普及事業の成果展を実施し、家族連れの集客や校外学習下見への相乗効果を図る。

また、レジデンス作家の展覧会や新収蔵品展などの企画を通して、陶芸の森の独自性を示す場として活用する。

ア. 結城美栄子展

＜開催期間＞ 令和6年4月6日(土)～4月21日(日)

「リサ・ラーソン展」の関連企画として、スウェーデンで幼少時代を過ごした女優であり、陶芸家としても活躍した、結城美栄子の個性豊かな作品を紹介する。

- イ. コレクション展 Part 2 「華開く近代京都の陶芸－富本憲吉と河井寛次郎」
 <開催期間> 令和6年4月27日(土)～5月26日(日)
 当館に寄贈された逸品の中から、滋賀とゆかりのある作家を中心に2パートに分けて紹介する。パート2は、富本憲吉と河井寛次郎を通じて、近代京都の陶芸に光を当てる。
- ウ. 世界をみつめてーシンクロする信楽の感性 ※甲賀市連携企画展
 <開催期間> 令和6年6月15日(土)～7月15日(月祝)
 信楽を拠点に独自の表現を探求する40歳・50歳代の作家10人の取り組みから、変貌しつつある信楽の一側面を紹介する。(信楽伝統産業会館に巡回(7/20～8/12))
- エ. 夏休み企画 子どもたちの土の造形展
 <開催期間> 令和6年7月20日(土)～9月1日(日)
 つちっこプログラムで体験した子どもたちのやきもの作品を展示する。
- オ. 森で生まれた東南アジアの美
 <開催期間> 令和6年9月14日(土)～12月8日(日)
 「躍動するアジア陶磁一町田市立博物館所蔵の名品から」の関連企画として、AIRで滞在制作した東南アジアの現代作家らの作品を通して、新旧の魅力を紹介する。
- カ. AIR企画 李承熙展
 <開催期間> 令和7年3月8日(土)～3月30日(日)(次年度へ継続)
 2022年の静中動展にも出品した韓国の代表作家である李承熙(イ・スンヒ)が、ゲスト・アーティストとして滞在制作を行った作品を中心に紹介する。

(6) 他の県立施設と連携した取組みの推進

美の魅力発信5館ネットワークの構成施設(県立美術館、安土城考古博物館、琵琶湖文化館、琵琶湖博物館、陶芸の森の5館)と連携して、ギャラリー・トークやワークショップ、連携企画展等を開催し、陶芸の森への集客の促進に繋げる。

(7) 収蔵品収集・管理活用事業

- ア. 陶芸の森移管試験場旧蔵作品活用展「信楽窯業技術試験場のあゆみ」
- イ. 北欧の現代陶芸ーうつわの造形美 ※甲賀市企画協力
 <開催期間> 令和6年4月2日(火)～令和6年5月22日(水)(前年度からの継続)
 <開催場所> 甲賀市皆水口歴史民俗資料館
 リサ・ラーソン展の関連企画として、陶芸の森で滞在制作したゲスト・アーティストの取り組みから、北欧でうつわの造形美を追求している4人の作品を紹介する。
- ウ. シリーズ近江のやきものー近世に花開いた湖国の陶窯と街道文化 ※甲賀市企画協力
 <開催期間> 令和6年6月29日(土)ー令和7年2月11日(火祝)
 <開催場所> 甲賀市水口歴史民俗資料館・土山歴史民俗資料館
 長く地域の人々の暮らしとともにあった近江の街道と、やきもの文化の魅力に迫る。

2. 創作事業(アーティスト・イン・レジデンス事業(AIR事業))

国内外からスタジオ・アーティストの受入れや、ゲスト・アーティストの招へいを通じて、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるとともに、より良い作家を多く受け入れることで、信楽の知名度向上に貢献する。

また、陶芸家の派遣も含め、国内外の類似機関との連携を強化し、信楽から世界に向けて積極的に陶芸文化の情報を発信する。

(1) スタジオ・アーティストの受入れ

令和6年度は、30名程度を受け入れることとし、公募選考に当たっては、経歴や個展開催回数、公募展への入選回数等に加え、将来的な期待値も含め審査を行う。

また、滞在アーティストや陶芸の森の訪問者に対しては、信楽町内の陶芸家やメーカーの工房見学の機会を積極的に設け、信楽焼の担い手たちとの相互交流を活性化させる。

(2) ゲスト・アーティストの招へい

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により受入れ延期となった海外在住作家を含め、国内外5名のゲスト・アーティストを招へいする。なお、公募選考に当たっては、外部有識者を含む選考委員会を設置し、将来性を評価した上で、未招へい国も含めて出来るだけ優秀な若手・中堅作家の選考に努める。

① ニュ・スウユウ（ミャンマー）

＜滞在期間＞ 令和6年4月16日～7月15日

＜制作予定＞ 東南アジアの信仰、民間伝承からインスピレーションされた作品

② メルヤ・ニエミネン（フィンランド）

＜滞在期間＞ 令和6年9月3日～12月26日

＜制作予定＞ 逃げる器と題した表現作品

③ カタリナ・クラッグ（オーストリア・イギリス在住）

＜滞在期間＞ 令和7年1月7日～3月31日

＜制作予定＞ 白い器に黒い線で加飾した内側が赤い器

④ ヤエル・ブラハ（イタリア・アメリカ在住）

＜滞在期間＞ 令和6年7月2日～令和7年3月30日

＜制作予定＞ グラフィカルな器

⑤ 坂本 紬野子（日本）

＜滞在期間＞ 令和6年5月14日～11月31日

＜制作予定＞ 柱状の彫刻的な作品群

(3) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会等

＜開催回数＞ オープン・スタジオ等：5回程度

(4) 陶芸の森ギャラリー等を基点とした情報発信と活性化

陶芸館ギャラリーや創作研修館ギャラリーなどを基点として、滞在する作家の展覧会活動を積極的に行い、アーティスト・イン・レジデンス事業の情報発信に努めるとともに、インスタグラム等のSNSを有効に活用し、展覧会情報等の広報を積極的に行う。

(5) 国内外の機関との連携

ア. 海外の機関との連携

海外の公的機関との連携強化を図り、フィンランドセンター、台湾文化センター、香港HKBU等と共同で陶芸家の受け入れプログラムを組み、人的交流の活性化を促進する。

イ. 国内の機関との連携

国内の陶芸、工芸関係のレジデンス機関とオンラインミーティングを開き、アーティスト・イン・レジデンス事業の今後の運営について議論する。

＜参加機関＞ 滋賀県立陶芸の森、京都芸術センター（京都市）、
瀬戸市新世紀工芸館（愛知県）、益子国際工芸交流館（栃木県）

(6) 収蔵作品の貸出事業

ゲスト・アーティストらが寄贈した収蔵作品を県内の施設等へ積極的に貸出し、陶芸の森で滞在制作されたことを明示するなどして、アーティスト・イン・レジデンス事業や陶芸の森施設の認知向上の一環とする。貸出しに当たっては、作品が適切に鑑賞者の目に触れられる空間作りを意識し、貸出し作品の選定や貸出先での設置作業にも携わる。

3. 「つちっこプログラム」／子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かし、やきものに関する鑑賞や体験事業を様々な形で展開する。学校との連携プログラムをさらに充実させることで、信楽焼を始めとした陶芸文化の普及や陶芸の森へのリピーター確保を促進し、次世代の陶芸の森ファン獲得に繋げる。

また、「世界にひとつの宝物づくり事業」と連携し、学校からの来園時の展覧会鑑賞や登り窯見学の充実を図り、心豊かで創造力にあふれた人材の育成に努めるとともに、子どもたちや障がいがある方の造形活動に対して支援する。

- 連携授業等における新規プログラムの企画（土面制作や令和土器等を随時追加）
- 小中高等学校・特別支援学校（学級）への出張授業の実施（130件／8,000人程度）
- 一般親子向け体験講座「ねんどと遊ぶ」の開催（4日／160人）
- 陶芸館ギャラリーを活用した連携授業の成果展の開催（学校夏休み期間中）
- 国スポ・障スポ炬火受け皿作成協力
- 《以下宝物づくり事業》
- 学校からの来園見学・制作プログラムの充実（100件／5,000人程度）
- つちっこ公式SNSからの情報発信（プログラム活動の随時紹介）
- 「リサ・ラーソン展」の関連企画となる展示作品をモチーフにした体験講座の検討
- 万博開催を見据えた外国人向け体験講座の検討
- 次世代人材育成に向けた信楽高等学校生のインターンシップ受入れ

第3 産業の振興に関する事業

令和4年度に陶芸の森の隣接地に移転した信楽窯業技術試験場との連携をより一層深め、互いの強みを活かした陶器産業の振興支援に協力して取り組むとともに、地域での人材育成を推進し、地元地域の産業振興や活性化に貢献する。

1. 信楽窯業技術試験場との連携事業

(1) 干支置物・リデザイン事業への企画協力

試験場の干支置物・リデザイン事業で製作される試作品資料・アニマルトイの地元陶器産業界による商品化に向けて、市場調査の結果も踏まえながら企画協力を行う。

(2) 滞在アーティスト等による講座の開催

試験場の研修生や、試験場主催のコトづくりセミナーの参加者に対し、アーティスト・イン・レジデンスで来館している作家・職員による講演や施設案内等を行い、アートやデザイン感覚等の向上を図る機会を提供する。

(3) 試験場の技術協力によるデジタルコンテンツ制作（再掲）

試験場のVR技術のノウハウを活用し、陶芸館所蔵品のデジタル情報を順次追加することで、アーカイブサイトの充実を図り、インターネットによる展覧会の開催を試みる。

2. 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校の各学年に対し、陶芸の森で体験実習や授業を行い、信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携して地域で人材育成に努める。

授 業 内 容	実施時期	対象者
ア. 信楽高等学校デザイン科外部研修受入れ	令和6年11月頃	3年生：30人
イ. 野焼き体験実習	令和6年11月	2年生：30人
ウ. 陶芸の森施設見学の実施	令和6年10月	1年生：80人
エ. 作家指導によるやきもの制作	令和6年9月～10月	2年生：30人
オ. 登り窯焼成実習	令和6年10月	2年生：30人

3. 若手陶器産業後継者等への支援事業

若手陶芸作家の発掘や陶器産業後継者の育成支援の一環として、陶芸館ミュージアムショップの「がちゃがちゃ（カプセルトイ）」で販売するモデル作品を広く公募する。

なお、デザインの優れたモデルについては、賞を授与するとともに、陶芸の森が一定数を購入してミュージアムショップの「がちゃがちゃ」で販売し、若手陶器産業後継者等への支援の一助とする。

第4 企画事業

1. ミュージアムショップの運営

来園者に対し、展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、カプセルトイ、特別展関連商品など、独自色のある商品の販売を行う。

併せて、インターネットを活用したオンラインショップによる商品提供や、民間事業者と連携した企画実施により販売を促進するとともに、地元企業等とも連携し、企画展示の内容に合致する商品や地元で生産された製品などの販売も試みる。

2. その他

(1) 自動販売機の設置

来園者が自由に憩い楽しめるように公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供する。なお、利益の一部については、納入通知に基づき納付金として県に納付する。

(2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供する。

(3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料の薪を提供する。